

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010361

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	オタコムシュベツ川改修事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	河川改修面積		#N/A	
事業目標	A=504㎡	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	護岸工 A=504㎡		護岸工 A=120㎡	護岸工 A=128㎡	護岸工 A=128㎡	護岸工 A=128㎡
計 画 事 業 費	事業費(千円)	27,300	0	6,000	6,700	7,300
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	27,300	6,000	6,700	7,300	7,300
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,312	0	5,832	6,480	0
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	12,312	5,832	6,480		
特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等) 護岸工 A=120㎡	(実施内容等) 護岸工 A=128㎡	(実施内容等)	(実施内容等)
【評価・実績】		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		120㎡	128㎡	128㎡	128㎡
第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	97%	97%	0%	0%
	全体達成率	0%	21%	45%	45%	45%
	備考欄					

事業名	オタクムシュベツ川改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	建設水道課長補佐	田原慎也

様式1  
平成27年度実施  
平成28年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補修河川数
【抱える課題やニーズは】	豪雨、融雪出水に伴う河岸崩壊による背後地への被害。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	豪雨、融雪出水に伴う河岸崩壊による背後地の被害の未然防止。	① 補修河川数/補修河川数	目標年度 平成27年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	河岸を改修による背後地の被害の未然防止。		目標値 128 m <sup>2</sup>
			実績値 128 m <sup>2</sup>
			達成度 100.0 %
		②	目標年度 平成27年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①民間業者による工事の実施	入札により、民間業者に工事を発注し、河川改修を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町管理となる河川の河岸決壊による背後地の被害防止は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	河川改修を実施したことにより、背後地の被害を未然に防ぐことができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	背後地の被害を未然に防止できたことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	背後地の被害を未然に防止できたことは、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
背後地の被害を防止するためには、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
背後地の被害を防止するためには、今後も計画どおり事業を進めることは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止